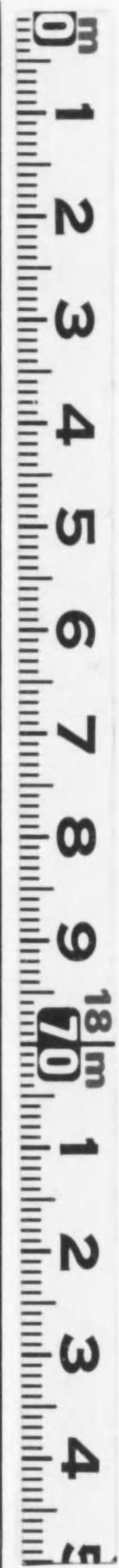


特 250

616

賀陽宮殿下台臨紀要



始



特250  
616

# 賀陽宮殿下台臨紀要

## 目次

一、台臨記念の辭	一
二、賀陽宮殿下台臨次第	一
三、名古屋支局の沿革及主管事務	一
四、台臨當日に於ける分課及分係	一
五、台臨當日に於ける職員	一
六、台臨當日に於ける吏員及所屬人員	一
七、台臨當日に於ける郵便貯金等取扱概況	一
八、銘感錄	一



## 台臨記念の辭

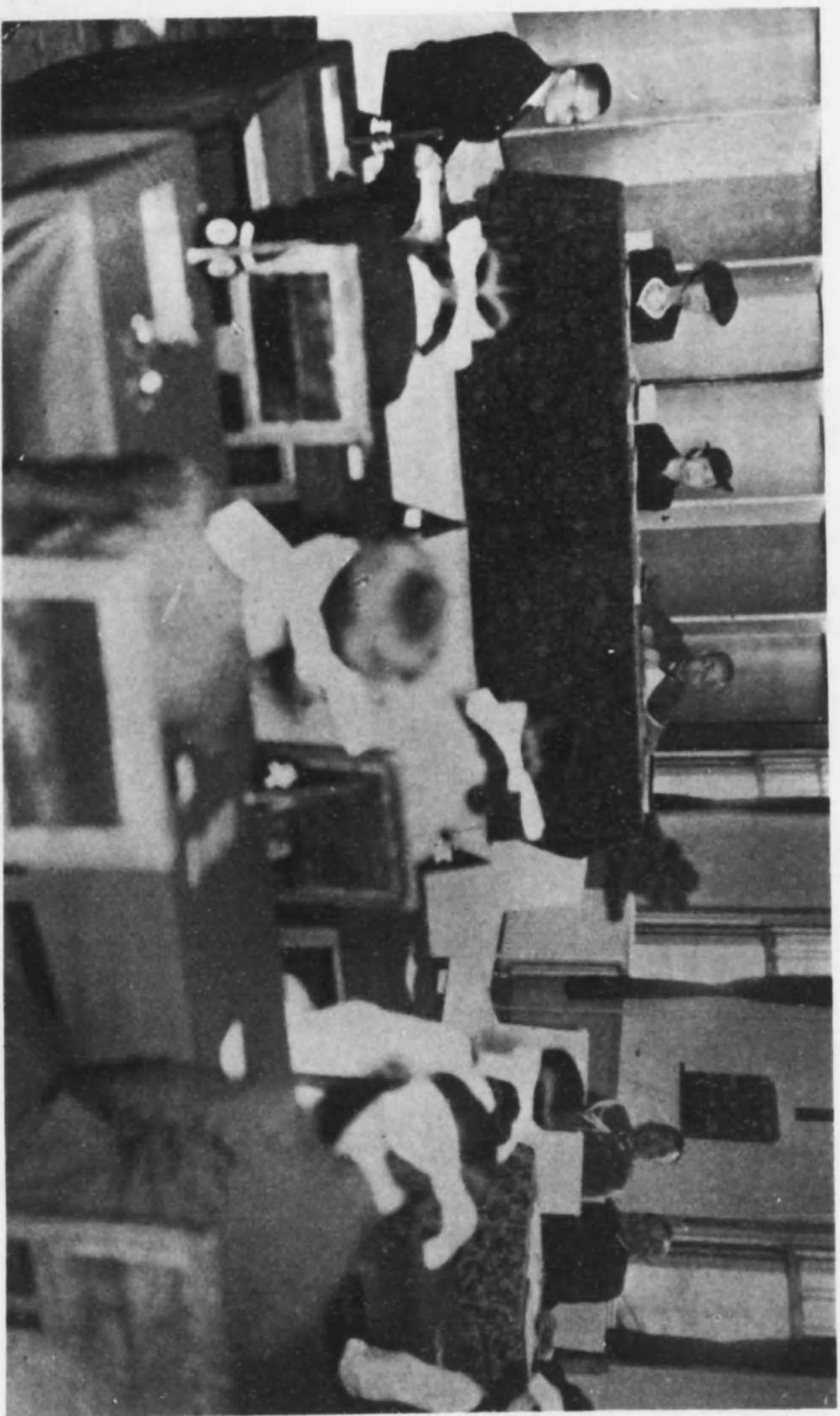
賀陽宮恒憲王殿下、同妃敏子殿下、美智子女王殿下には昭和十八年九月二十五日決戦下の貯蓄奨励と女子勤勞狀況御視察の有難き思召を以て當局へ台臨あらせられ親しく各課の執務狀況より傳票獨算、讀上暗算、揭示數暗算等の選手競技並参考品、局員製作展覽品に至るまで前後一時間二十分に互り御熱心に台覽の榮を給はりましたが殊に美智子女王殿下の御成は若き勤勞女性の大きいなる感激でありました。我が名古屋貯金支局は大正九年十一月に設置せられ爾來時勢の進運に伴ひ漸次發展を遂げ殊に支那事變より大東亞戰爭へと時局の進展に隨ひ所管事務の劇増は實に底止する處を知らず今日の盛況を以て過去を想起すれば寔に隔世の感があるのであります。

時局の波に乗つて涯しなく増大しゆく事業の蔭には極めて忠順勤勉なる局員の努力と熱意と猛訓練により卓絶せる技能の支ふるありて貯蓄陣營の將來は微動だもせざるところであります。然れども刻下の情勢に鑑み貯蓄事業の責務は極めて重且大にして前途亦ただ多事であります。局員たるもの此の未曾有の光榮を銘記して益々奮勵努力以て有難き思召に沿ひ奉らんことを誓ふ次第であります。

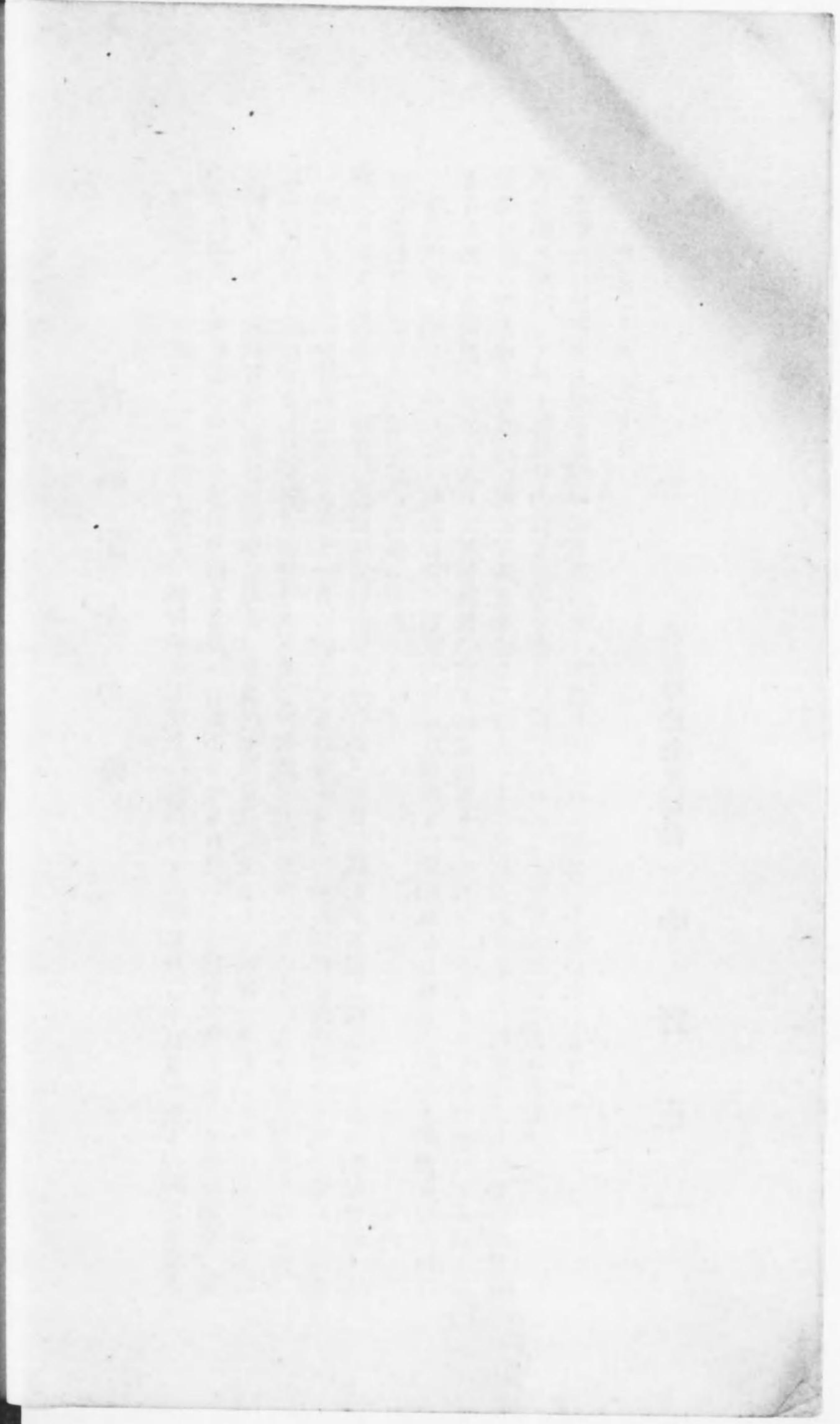
茲に此の光榮ある冊子を頒つに當り謹んで所感を陳べ以て記念の辭といたします。

昭和十八年十月

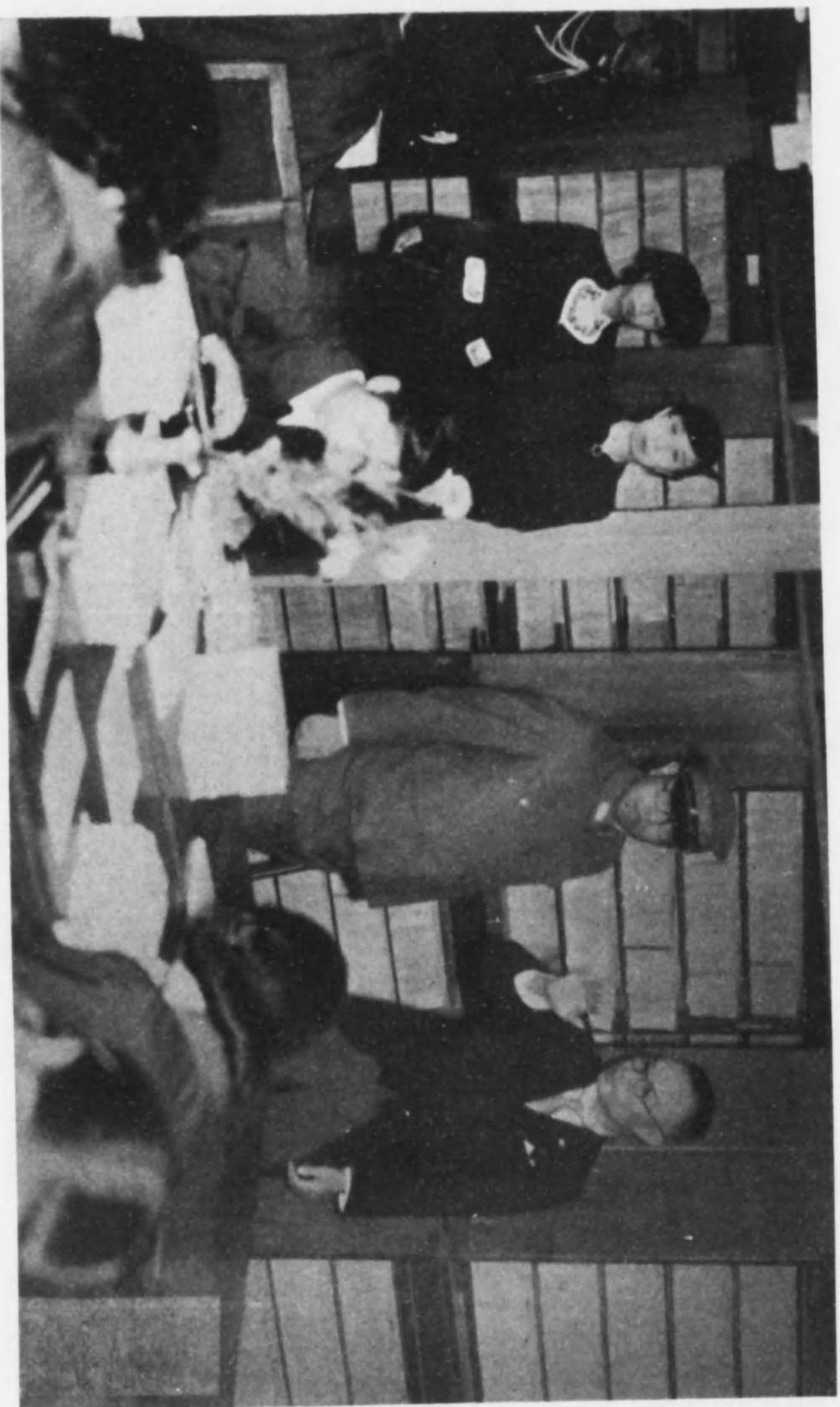
名古屋貯金支局長 中野正一

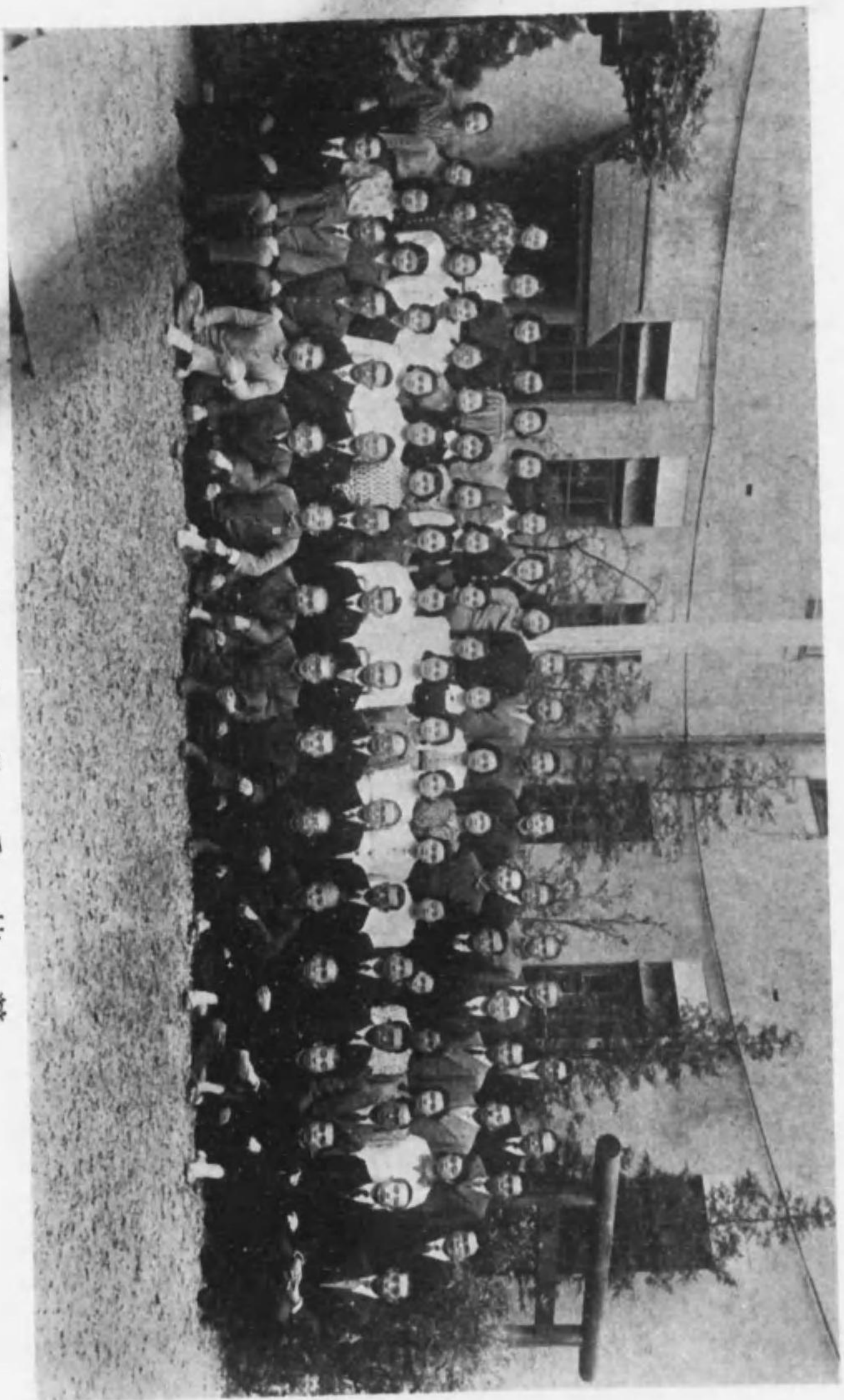


按 競 算 上 讀 目 旨

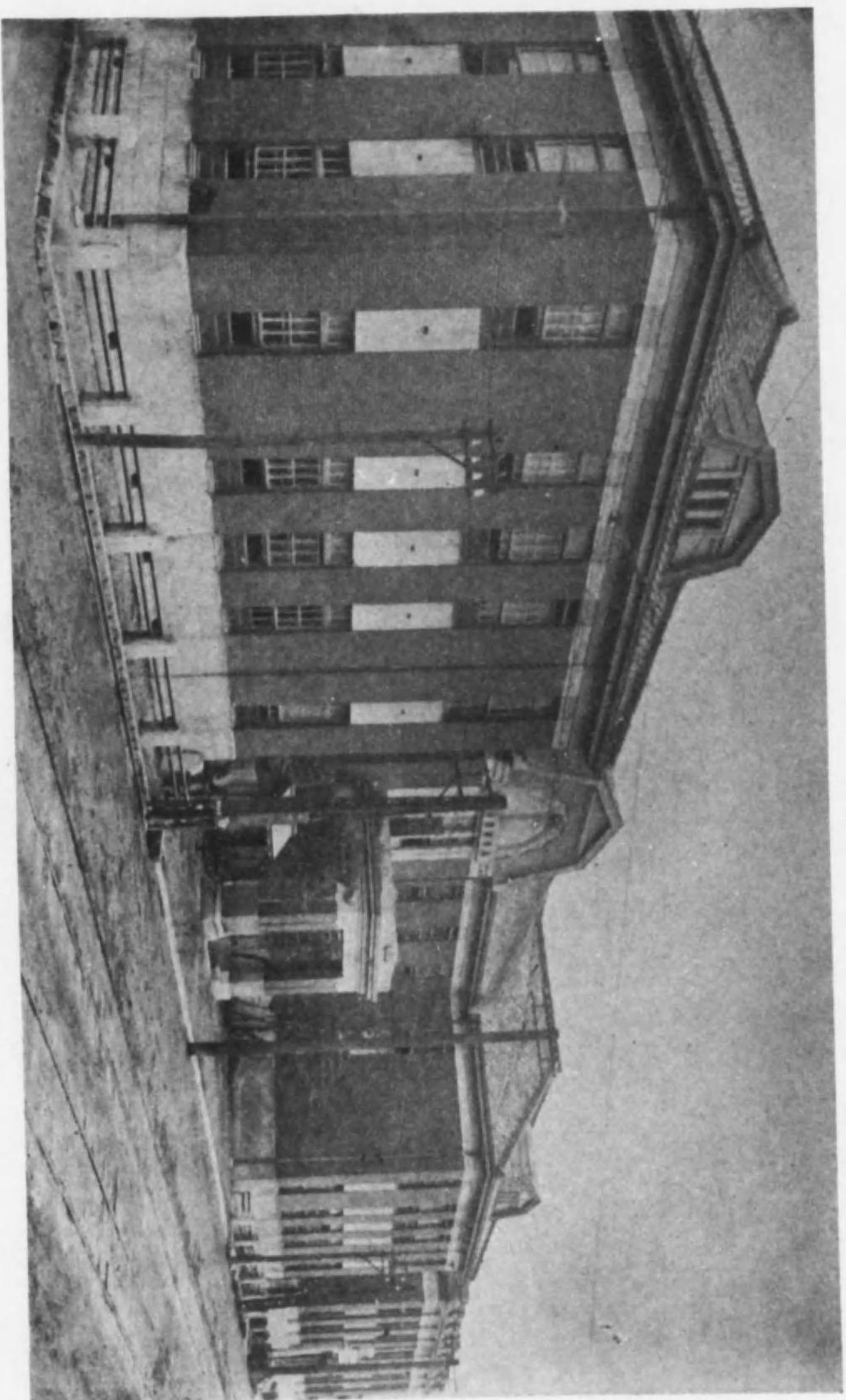


覽 巡 御 室 務 事





者 技 競 及 員 委 技 競



景全局支金貯屋古名

賀陽宮殿下台臨次第

△台臨あらせられたる年月日

昭和十八年九月二十五日（土曜日）

△台臨の順序及時間

御著（貯金支局正面支關） 午前九時

逓信局長、支局長拜謁

各課長列立拜謁

事務御説明 午前九時十分

御休憩

現業執務状況御巡覽 午前九時十五分

参考品台覽

競技台覽 午前九時三十五分

御休憩

御歸還 午前十時二十五分

△局内御巡覽順序

御休憩所より

別館階上

第四貯金課計査係へ

振替貯金課加入係へ



同階下 振替貯金課口座係へ  
 新館階上 第三貯金課へ  
 同 第二貯金課へ  
 本館階下 第一貯金課第二原簿係へ  
 同 参考品陳列室へ  
 同階上 競技室へ

△台覽に供したるもの及説明者

- (1) 局長室に於て 支局長
- (2) 事務室に於て 支局長
- (3) 執務状況 同
- (4) 参考品陳列室に於て 同
- 事業の趨勢等 同
- 競技場に於て 同
- 珠算暗算競技 同

△室割

- (1) 御休憩室 局長室
- (2) 陪觀者室 應接室

- (3) 参考品陳列室 會議室
- (4) 競技室 第一貯金課室

△奉送迎

奉送迎は正面表玄関より右方に西面し男女別各課別の四列横隊を形りて整列し奉送迎をなす。  
 前面御通過の際一同最敬禮を行ふ。  
 御著と共に支局長御先導申上げ御休憩所へ御案内。  
 各課長は陪觀者と共に御休憩所入口迄御供申上げる。

△台臨の御模様

御著

此の日朝來薄曇りて風なく掃き清められたる御道筋には、局員の外町内日婦會員、一般町民等塔列奉迎申上ぐる中に 三殿下お揃ひにて御附武官大場中佐を従へさせられ午前九時自動車にて御著殿下には陸軍中將の御軍装凛々しく 妃殿下、女王殿下には紫紺色の御洋装も輕やかに降り立たせられ奉迎の諸員に會釋を給ひつゝ支局長の御先導にて階上御休憩室へ入らせられ直に有資格者一同に調を賜り支局長より言上する支局の沿革、主管事業の概要、従事員の状況、防空對策等御聽取の後御休憩。

亞いで陪觀の榮を得たる生田名古屋逓信局長、加藤少佐並野瀬庶務課長御待申上ぐる中に午前九時十五分御休憩室を出でさせられ事務室御巡覽に向はせらる。

執務狀況御巡覽

支局長御先導申上げ第四貯金課事務室に成らせらる。

蜂須賀課長以下課員最敬禮の裡に歩を進ませ給ひて執務の状況を台覽あらせられ支局長より同課掌理事務に就き一般的の御説明を申上ぐれば、殿下には一々頷かせ給ふ。

次に振替貯金課事務室に成らせられ辻課長以下課員奉迎裡に徐ろに事務室に入らせらる。

支局長の申上ぐる振替貯金の御説明に、三殿下にはいとも御熱心に御傾聴あらせらる。

第三貯金課事務室に於ては永野課長以下の禮を受けさせ給ひて御道筋を緩やかに進ませ給ひ女子従事員の執務状況に深き御關心を寄せさせられ卓子近く御佇立ありて御覽、支局長の貯金事務の御説明を御聴取あらせられる中に歩を第二貯金課事務室に向はせらる。小原課長以下課員奉迎申上ぐる裡に歩を進ませられ従事員の精勵せる状況を具さに御覽あらせられ女子従事員の待遇に就き御下問を賜ふ。

次に第一貯金課事務室に入らせられ今井課長以下課員の奉迎を受けさせ給ひ之にて現業事務の巡覽を了へさせらる。

次に参考品陳列室に於ては局員の書、生花等の展覽品に深く御目を留めさせられ、妃殿下より生花の流儀に就き御下問あり次いで競技場に向はせらる。

#### 珠算及暗算競技台覽

九時三十分 三殿下には競技場に成らせられ競技委員、競技者等最敬禮の裡に御著席あらせらる。諸員著席するや支局長競技次第書を御机上に捧ぐ。

場内は咳一つなき靜肅の中に包まる。

支局長は御座席に斜に面して起立し

。珠算獎勵の趣旨

。優技者の養成

。競技の總括的説明

を言上すれば、殿下には一々軽く頷かせ給ふ。

競技種目は

一、傳票獨算（百枚傳票）

二、傳票及讀上混合算

三、盲目讀上算

四、讀上暗算

五、揭示數暗算

の五種目にて支局長より各競技開始毎に競技の概要を御説明申上ぐ。競技終了毎に答案紙を台覽に供すれば其の度毎に、三殿下には長くも答案紙を御手に御覽あらせらる。

時間の餘裕あるを以て特に讀上暗算三位五十口、五位十口の御出題を言上申上げたるに、官殿下並妃殿下より親しく御出題を賜り競技委員、選手一同感激、かくて良好の成績を以て競技終了御休憩室に向はせらる。

御 退 局

御休憩所に於かせられては局員の奉仕する抹茶を召させられ其の間 女王殿下には選手の競技に就き母宮殿下と御物語あらせられたるやに洩れ承る。斯くて御休憩十分の後支局長の御禮言上に對し特に 三殿下御起立の上有難き御言葉を給ひ諸員奉送裡に十時二十五分御機嫌麗しく御歸還遊ばされたり。

競技委員

司會

競技進行委員

時計委員

揭示數材料委員

時分監査委員

支局長  
貯金局書記

中野正一  
石黒保郎  
中西昌三  
蜂須賀徳義  
野瀬勝三郎  
小原肇  
永野良男  
野瀬勝三郎  
松尾喜一  
伊東要  
大西条三郎  
上田彦太郎

競技答案審査委員

讀上(暗算、讀上算)委員

御休憩室準備委員  
接待委員  
参考室委員

競技者

傳票獨算

近藤照子  
伊藤花子  
水野千代子  
淺野繁信  
傳票及讀上混合算  
近藤照子  
伊藤花子

吉川千代子  
朴貴順  
三浦きく子  
吉川千代子  
朴貴順

大野ユキ  
谷茂  
加藤美代子  
西村初子  
大野ユキ  
谷茂

西川孝一  
遠山ひさ子  
大平傳衛  
西川孝一  
遠山ひさ子

龜井正子  
今枝知子  
岩間春子  
關口精吾  
龜井正子  
今枝知子

同同同同同同同同

本多得雄  
小原肇  
永野良男  
本多得雄  
山田勇  
市川茂  
戸谷亮輔  
高木義信  
荻野堅次

水野千代子  
 浅野繁信  
 藤井愛子  
 三浦きく子  
 加藤美代子  
 西村初子  
 平山敏子  
 大平傳衛  
 岩間春子  
 關口精吾

○ 讀上暗算  
 伊藤芳子  
 大野照子  
 吉田隆夫  
 伊藤幸一  
 高橋はる子  
 加藤三郎  
 高橋通行  
 伊藤日奈子  
 大山茂  
 矢野榮一  
 平岩利子  
 稻熊くに  
 大森喜八郎  
 池上きのゑ  
 三輪忠子  
 秋田實保  
 戸松美代子  
 青山あさ子  
 野口久一  
 山本榮太郎

○ 讀上暗算  
 伊藤芳子  
 大野照子  
 吉田隆夫  
 伊藤幸一  
 高橋はる子  
 加藤三郎  
 高橋通行  
 伊藤日奈子  
 大山茂  
 矢野榮一  
 平岩利子  
 稻熊くに  
 大森喜八郎  
 池上きのゑ  
 三輪忠子  
 秋田實保  
 戸松美代子  
 青山あさ子  
 野口久一  
 山本榮太郎

○ 讀上暗算 (御出題)  
 揭示數暗算競技者をして出場せしむ。  
 伊藤幸一  
 吉田隆夫  
 大野照子  
 伊藤芳子  
 高橋はる子  
 加藤三郎  
 高橋通行  
 伊藤日奈子  
 大山茂  
 矢野榮一  
 平岩利子  
 稻熊くに  
 大森喜八郎  
 池上きのゑ  
 三輪忠子  
 秋田實保  
 戸松美代子  
 青山あさ子  
 野口久一  
 山本榮太郎

競技優勝者

○ 豫備員  
 小出美千代  
 春日邦男  
 川口美智子  
 川端菊雄  
 松崎澄子

○ 傳票獨算  
 近藤照子  
 伊藤花子  
 大平傳衛  
 吉川千代子  
 岩間春子  
 關口精吾  
 大野ユキ  
 浅野繁信  
 三浦きく子  
 藤井愛子  
 遠山ひさ子  
 西村初子  
 西川孝一  
 龜井正子

○ 傳票及讀上混合算  
 近藤照子  
 西村初子  
 大野照子  
 吉田隆夫  
 山本榮太郎  
 稻熊くに  
 大森喜八郎  
 加藤三郎  
 伊藤幸一  
 高橋はる子  
 大森喜八郎  
 岩間春子  
 藤井愛子  
 龜井正子

○ 讀上暗算  
 戸松美代子  
 大山茂  
 青山あさ子  
 伊藤日奈子  
 稻熊くに  
 大森喜八郎  
 吉田隆夫  
 秋田實保  
 伊藤日奈子  
 高橋通行  
 山本榮太郎  
 加藤三郎  
 平岩利子  
 矢野榮一  
 平岩利子  
 矢野榮一

○揭示數暗算

伊藤芳子	伊藤日奈子	加藤三郎	大森喜八郎	戸松美代子
稻熊くに	野口久一	矢野榮一	平岩利子	大山茂
秋田實保	高橋通行			

○讀上暗算(御出題)

戸松美代子	伊藤日奈子	大野照子	稻熊くに	加藤三郎
吉田隆夫	秋田實保	大森喜八郎	矢野榮一	高橋通行

△名古屋支局の沿革及主管事務

大正九年十一月名古屋市中區東陽町三丁目元遞信講習所跡に設置し振替貯金口座事務を開始す  
 同年十二月貯金局より愛知縣預け人原簿百六十餘萬口座を移替し郵便貯金事務を開始せり  
 越へて十年一月更に岐阜縣及三重縣に屬する預け人原簿の移替を受け中部三縣下の貯金事務を掌理  
 することとなりたり

大正十二年九月關東大震災に依り罹災貯金整理の爲靜岡縣に屬する預け人原簿の臨時移替を受け之  
 を分掌せしも昭和六年三月復舊事務進捗に依り貯金局に移替せり  
 昭和十七年六月より證券保管事務を開始せり

愛知、三重、岐阜三縣下の郵便貯金、證券保管、郵便振替貯金等に關する事務を掌る

△台臨當日に於ける分課及分係

庶務課 庶務係  
 會計係

第一貯金課

庶務係 第一原簿係  
 計原簿係 第二原簿係

第二貯金課

庶務係 第一原簿係  
 計原簿係 第二原簿係

第三貯金課

庶務係 第一原簿係  
 計原簿係 第二原簿係

第四貯金課

庶務係 第一原簿係  
 計原簿係 第二原簿係

振替貯金課

加座入係  
 口座係

證券課

證券製係  
 調製係

△台臨當日に於ける職員(係長以上)

名古屋貯金支局

支局長 從六位勳五等 中野正一

課	庶務課	會計課	第一貯金課	課	庶務課	計查課	第一原簿課	第二原簿課	第三貯金課	課	庶務課	計查課	第一原簿課	第二原簿課	第三貯金課
	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
	從七位勳八等	從七位勳八等	正七位勳七等	從七位勳八等	正七位勳七等	從七位勳七等	從七位勳八等	從七位勳八等	正七位勳七等	從七位勳七等	從七位勳七等	從七位勳八等	從七位勳八等	從七位勳八等	從七位勳七等
	野瀨勝三郎	伊東亮輔	今井房吉	上田彦太郎	青木重治	岡部秋助	本多得雄	福島秀吉	小原肇	小泉鐵太郎	平野友治	長谷川清	中西昌三	永野良男	

△台臨當日に於ける吏員及所屬人員

課	庶務課	計查課	第一原簿課	第二原簿課	振替貯金課	課	加入係	口座係	課	證券係	課	證券係	課	調製係
	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
	從七位勳八等	從七位勳八等	從七位勳八等	從七位勳八等	正七位勳七等	從七位勳八等	從七位勳八等	從七位勳八等	從七位勳八等	從七位勳八等	從七位勳八等	從七位勳八等	從七位勳八等	從七位勳八等
	大西余三郎	川村富見	鈴木善五郎	伊藤主一	蜂須賀徳義	石黒保郎	秋葉武雄	長谷川洋	山本好太郎	辻謹治	萩野堅次	岡田信孝	松尾喜一	高木義信

課別	書記		事務員		臨時事務員		備人		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
庶務	一五	二	二五	二九	五	三	三	六	一三二
第一貯金	三〇	二四	二八	二八					三三九
第二貯金	二五	一九	二六	一八〇					二七一
第三貯金	二四	二二	三三	一五四					二三九
第四貯金	三三	二〇	二九	一六四					二五七
振替貯金	二二	一六	一三	四六	一	一			九五
證券	三三	二五	二〇	一五六	二	四			三〇六
合計	一五〇	一二〇	一六四	九四七	二九	六三	三三	六	一六二九

△台臨當日に於ける郵便貯金等取扱概況

郵便貯金

男女別割合  
 (1) 預入  
 新規口座数 六、四〇一口  
 預入金額 一、二〇、〇三七口  
 (2) 拂戻  
 預入金額 一、九五四、八五七圓  
 全拂口座数 二、四五九口

振替貯金

(1) 受入  
 新規口座数 八口  
 受入口数 一一、一五三口  
 受入金額 一、五〇二、一八一圓  
 (2)  
 拂出 六口  
 脱退口座数 六、一七一口  
 拂出口数 一、二〇六、一八四圓  
 拂出金額  
 (3)  
 現座  
 拂戻金額 一、一七〇、〇三〇圓  
 口座数 一一、七七四、四四五口  
 金額 一、四九九、七六九、二八三圓

證券

新規人員 二七五人  
 受入口数 一、一六三口  
 受入枚数 五、二二一枚  
 受入金額 九七、二四三圓

支那事變以後に於ける狀況

昭和十二年度

郵便貯金		一ヶ月間に於ける取扱數		一ヶ月平均	
新規口座數	六三八、八五六口			五三、二三八口	
預入口數	一五、一九一、八六八口			一、二六五、九八九口	
預入金額	二、三二、五五三、七四八圓			一九、三七九、四七九圓	
全拂口座數	四三一、八二〇口			三五、九八五口	
拂戻口數	四、二七〇、三二〇口			三五五、八六〇口	
拂戻金額	二、一、五九二、五四四圓			一七、六三二、七一二圓	
年度末現在					
口座數	四、三〇〇、六一七口				
金額	四六三、二三八、七四二圓				
振替貯金					
新規口座數	六、一〇八口			五〇九口	
受入口數	三、三七九、三五六口			二八一、六一三口	
受入金額	一一四、四三一、九一六圓			九、五三五、九九三圓	
脱退口座數	八一六口			六八口	
拂出口數	八七五、三四〇口			七二、九四五口	
拂出金額	一一二、七八二、三一二圓			九、三九八、五二六圓	
年度末現在					
口座數	三九、二九八口				
金額	七、〇六九、三六〇圓				

昭和十七年度

郵便貯金		年度末現在	
新規口座數	二、七三九、一九二口		二二八、二六六口
預入口數	五〇、三九六、〇五二口		四、一九九、六七一口
預入金額	七〇五、一二二、二三二圓		五八、七六〇、一八六圓
全拂口座數	九五九、四三六口		七九、九五三口
拂戻口數	五、四四三、六九二口		四五三、六四一口
拂戻金額	四二一、四一一、四〇四圓		三五、一一七、六一七圓
年度末現在			
口座數	一〇、七二七、八五〇口		
金額	一、二七二、一五三、四二六圓		
振替貯金			
新規口座數	二、九二八口		二四四口
受入口數	四、八七二、四九二口		四〇六、〇四一口
受入金額	三三四、〇五四、一〇四圓		二七、八三七、八四二圓
脱退口座數	一、〇二〇口		八五口



銘

感

錄

證	新	受	受	額	證	金	口	年	拂	拂
券	規	入	入	面	券	額	座	度	出	出
	人	口	口	金			數	末	金	口
	員	數	數	額				現	額	數
								在		
	二一九、〇八四人	一、〇五六、一九二口	四、三二八、〇八八枚	六七、五六〇、七二〇圓	(昭和十七年六月以降)	一七、八九六、六五三圓	五四、八六七口		三一、九七三、三五二圓	一、三二一、八七二口
	一八、二五七人	八八、〇一六口	三六〇、六七四枚	五、六三〇、〇六〇圓					二七、六六四、四四六圓	一一〇、一五六口

中部日本新聞に掲載せられたる記事 (轉載)

賀陽宮三殿下

決戦貯蓄に御心

名古屋貯金支局に御成

決戦下の貯蓄奨励と女子勤勞執務狀況御視察のため長くも 賀陽名古屋師團長官殿下には妃殿下、美

智子女王殿下と御揃ひにて二十五日午前九時名古屋貯金支局へ御成遊ばされた。

三殿下には生田名古屋逓信局長、中野貯金支局長、今井第一貯金課長以下幹部職員の御迎へ申上けるうちに御著生田、中野兩局長以下有資格者に賜調ののち局内の現業執務狀況を御巡覽第一、第二、第三第四貯金課、振替貯金課などで働く銃後女性の眞摯な姿に御慈みの有難き御言葉を賜はりついで参考品陳列室で「戦時と郵便貯金」「事變後の貯蓄の成果」などの統計につき中野局長の御説明申上けるのに一々御下問あり更に競技場に御成遊ばされ女子職員傳票獨算、傳票及讀上混合算、盲目讀上算など競技の迅速と正確振りを親しく御覽職員一同は感激し益々奮勵して一段と能率をあげて長き御心に副ひ奉る決意を御誓ひ申上げた。

かくて殿下には前後一時間半にわたる同局御視察を終へさせられ同十時三十分御發御歸還遊ばされた

中野支局長謹話

賀陽師團長官殿下におかせられましたは妃殿下、女王殿下と御揃ひで決戦下の貯蓄奨励の思召をもつて特に當支局へ御成遊ばされ職員一同光榮に感激してゐる次第です。殊に美智子女王殿下の台臨を仰いで働く若き女性達は一入熱意をもやし職員一同今後一段と能率をあげて有難き思召に副ひ奉る覚悟であります。

## 台臨の光榮に浴して

庶務課 後藤 豊子

昭和十八年九月二十五日！賀陽官殿下には決戦下の貯蓄奨励と女子勤勞状況御視察の思召を以て我が支局に台臨遊ばされたのである。一日千秋の思ひで御待ち申上げた此の日、朝陽の光もやはらかに、和やかな四方の大氣に、未曾有の光榮に浴する一千數百名の心は、自ら清め鎮められて行くやうであり榮光の廳舎にも日章旗は翻翻と翻り、今日の佳き日を壽ぎ奉つてゐる。

御豫定の午前九時もあと僅か、服装を整へ静かに詰所へと向へば、水打ち清められた玄關より表には早くも居竝ぶ局員の面々、お互の顔には云ひ知れぬ緊張の色が漲つてゐる。庭に敷きつめられた砂利、緑彌益木々の葉影にも何時になく名状し難い崇厳な感さへ覺えたのであつた。やがて逓信局長、支局長各課長等は御出迎への爲表玄關に出られた。今や路上の歩みもなく、紙の音一つしない静けさ、息詰るやうな緊張の中に感激の時刻は刻一刻とせまり行く。

愈々定刻九時！御召車の滑り来る靜かな音に、我が胸はたぎり、夢の中にある如く……。

「氣を付け！」「敬禮！」の號令に思はず我に返り頭を上げた時、支局長の御先導にて軍装も凛々しき殿下續いて御清楚な同妃殿下、美智子女王殿下の歩を運ばせ給ふ御姿を眼のあたり拜したのである。御通過の際、三殿下には畏くも御會釋さへ給ふたのだ。此の感銘深き一瞬、私達は餘りの感激に唯胸震はせ、しばし呆然と佇んだのであつた。

職場に闖ふ者の上に深き御心を垂れさせ給ふと承る。三殿下には各事務室を親しく御巡覽、一般局員の眞摯なる執務状況を台覽遊ばされ次いで参考品、局員餘技陳列品をも御覽、その一つ一つに深く御留意遊ばされ、續いて珠算競技を四十分に互り台覽遊ばされた。此の競技には一入御興深く、殊に殿下妃殿下より御自ら暗算の御出題を賜つた由、此の重ねくの光榮に選手の感銘如何ばかりであつたらうか。

嗚呼、思へば此の日、私達一民草にありながら、尊き氣高き御姿を餘りにも身近に拜し又有難き御會釋迄賜はらうとは。此の光榮、此の感激何にたとへようぞ。これこそ、私達一生の感激のみならず、全逓信従業員の光榮であらねばならない。

私は貯蓄戦第一線の戦士として、愈々挺身職域奉公に邁進し此の難關を貫く一員たらんと、この時こそ我と我が身に堅く誓つたのである。

## 接待係の一員として

第一貯金課 近藤 照子

この日早朝は朝靄低くたなびき氣遣はれしお天気も次第に晴れ渡り絶好の台臨日和となりました。

朝まだきより局の内外は塵一つ止めぬ迄掃き清められ打水のあとも清々しく庭の常盤木緑いや増し日章旗は翩翻とひるがへり生あると否とに拘らずもの皆最大の歡喜に満ち溢れて居ります。

この日接待係の一員として光榮に感激し早朝起き出で心身ともに清淨になし局内の守護神にも参拜し今日の務の無事に果せませす様にお祈り致し敬虔なる氣持にて水屋へと入りました。

水屋は既に清掃され凡ての器物は消毒して今はたゞ御著を待つばかりでした。

時計の針の刻一刻と過ぎ行くにつれ係員一同黙々として緊張し釜の湯の沸る音のみ静寂を衝いて流れて來ます。

愈々午前九時御著お揃ひにて御休憩所へ入らせられました。

お茶をおたて申上げる重大な私の任務に身は一段と引きしまり茶筌持つ手許微かにふるへて参りました。

お紅茶、お菓子、お抹茶、果物と豫定通り接待員が御前にお運び申上げ無事に大任を果し得ました事は神の御加護と高木係長の御指導のお蔭と深く感謝致して居ります。

かくて 三殿下には前後一時間半にわたる當局御視察を終へさせられ十時三十分御機嫌御置しく御歸還遊ばされました。

貯金支局として宮殿下の台臨を仰ぎました事は當局が嚆矢との事この光榮ある時に逢着致しました身の幸をひしく感じます。

今後女子の任務は益々重大となります私達は今こそ決然として職場に立ち上る時であります。

今日のこの感激を永へに忘るゝ事なく光榮ある支局の名を少しでも辱しめる事なく貯蓄報國に邁進致す決意で御座います。

## 台覽競技に参加して

第一貯金課 戸松美代子

昭和十八年九月二十五日、今日こそ全局員が只管お待ち申上げた 賀陽師團長官殿下、妃殿下、美智子女王殿下御三方の台臨を仰ぎ奉る光榮の日なのだ。

流石に包みおほせない今日の喜びと榮譽とは緊張した局内にも満ち溢れた。

午前九時 三殿下御著の知らせは競技場にて身に餘る今日の光榮に高まる胸を押し鎮めて居た私達にも傳へられた。

殿下には局内現業執務状況を御巡覽、ついで参考品陳列室にお成り遊ばされた御後愈々競技場に台覽遊ばされるのだ。

嚴肅と緊張の一瞬………殿下、妃殿下、女王殿下、御三方の尊き御姿を目のあたり拜し奉り思はずぐつと身の引きしまるのを感じた。「最敬禮………」「着席………」胸中は感激に溢れくる。

競技開始のベルは靜かに競技場に鳴り響いて第一回傳票獨算、續いて第二回傳票及讀上混合算が行はれた。

「選手交替」暗算の部に屬する私達は珠算の部が終了したので愈々交替して日頃練習を重ねた自分の技能を最高度に發揮する時が來た。

「落ち着いて………」と心を引きしめ乍ら指定された二番の席に歩を運ぶ。

第三回盲目暗算、私達は用意の手拭にて目隠しをして開始のベルを待った。先程迄感激であんなに轟い

た胸の中は今静かに落着いて居た。やがて讀上げられる三桁の金額も夢中で算入した。第四回暗算、二桁より四桁迄の加減が急速に讀上げられた。競技中は只「一生懸命」この四字以外何にも念頭のない私達は台覽の光榮に副ひ奉るべく競技に夢中であつた。

第五回揭示數暗算、開始のベルと共に十桁十口の金額が前方に高く掲げられた。頭の中は彈丸の如く動いて「正確にそして一秒も早く」と算入せられて行く、そして豫定種目は無事終了して最後に暗算三桁及五桁の金額が讀上げられた。

これで全競技終了して選手各自の成績も後から支局長より「大變よかつた」とのお言葉を頂いて嬉しかつた。

「起立………」「最敬禮………」

三殿下には支局長始め競技關係者感激の面持でお見送り申上げの中を御歸還遊ばされた。

「感激の九月二十五日！」この日は何時迄も私達の胸に深き感銘の日として刻み込まれた。そして私達は有難き御心に副ひ奉るべく今後一段と職域奉公に邁進致す事をお誓ひして感激のまゝに走らした筆を止める。

## 台臨を仰ぎて

第二貯金課 海老原 岬

大東亞戰下我々の従事して居ります郵便貯金事業も大東亞建設の國是に従ひましてとみに發展膨脹致

し我々も前線に思を馳せ共に一環となり汝々營々と努力してゐる次第でありますがこの秋 畏くも金枝玉葉の御身を以て九月二十五日我が名古屋貯金支局へ戦時下に於ける郵便貯金業務並に従事員の執務狀況を御視察遊ばさるゝ深き御思召から妃殿下、美智子女王殿下御描ひにて大場御付武官を従へさせられ台臨遊ばされたのであります。

この事は我支局開局以來の榮光であるばかりでなく全國各支局を代表致しました榮譽なると同時に我々従事員も身を貯金事業の職場に置くが故に享受出来ました名譽であることを銘刻致さねばならないと存する次第であります。従ひまして我々の事業が日本の現狀に照して如何ばかり重大であるかに其の時程胸を打つた事はないのでありまして洵に恐懼感激致しました次第であります。

殊に妃殿下、美智子女王殿下の御成りと言ふことは女子従事員の身の上に思を垂れ給ふこと殊の外御深きものが御座いますと拜察致し女子従事員齊しく感激一入のものがあつた事と存する次第であります。各事務室御巡覽の御砌りには實に尊き御姿を咫尺に拜しまして一同感動感泣致しました次第であります。

洩れ承る處によりますと台覽珠算競技場に於かれまして競技の御出題を賜りましたことは當日奉仕されました役員、選手は勿論のこと算盤を以て御奉公申上げます我々に無言の御激勵と拜しまして感佩致し益々技を磨き精進することを深く誓ひ奉つた次第であります。

かくて御機嫌麗しく御歸還遊ばされたのであります但其の際支局長に有難き御言葉を賜はりました由承り我々は 殿下の深き御思召を夢寐だに忘れず大東亞戰爭完遂まで一大拍車を入れて邁進せねばならぬことを重ねて聳々と胸に浸みいつた次第であります。

## 御休憩室におかせられる御模様

第三貯金課 井 上 武 子

二六

- 一、殿下御着の報に一段と心を落着かせて用意した蒸タヲルをお運び申上げますと御三方様今迄何か御話を遊ばされて居られました御様子に拜されましたが私達の姿をお認められますと御聲を止めさせられ御座所近くに参進しますと殿下には軽く御頷かせられ「直ぐ持つて行つてくれ」と御言葉賜り御顔、御手を拭はせられ長くもタオルを御たゝみ遊ばされ器に御入れ下さいまして私共の方へ御渡し下され誠に勿體なく存じました。
  - 一、引續き含嗽器を御運び申上げますと殿下には「うがいかね」と軽く御獨語を御洩らせ遊ばされ三度御口を注がせられ私共の扱よいよ様御渡し下さいました。
  - 一、殿下には競技会場より御休憩室に成らせられ再び含嗽器を御運び申上げますと御三方様は競技に於ける御噂等を遊ばされ 妃殿下、女王殿下には殊の外御興深く御語り遊ばさるゝ御模様を拜し感激一入で御座いました。
  - 一、御菓子捧呈致しました時殿下には軍帽を前方へ御置き替へ遊ばされ御手づから御受取り遊ばされ 貴い御身で下々の私共に細い點に迄一々御氣をとゞめさせられ身に餘る光榮感激に咽びつゝ退出致しました。
- 其の他抹茶、果物、苺セット等御運び申上げました時も御氣軽く一々御返事御會釋を賜り長き御心に只々恐懼感激致すのみで御座いました。

## 華道部員として

第四貯金課 平 林 つ や 子

九月二十五日！ 菊の香り高き秋の日 賀陽宮様を我が貯金支局へ御迎へ奉る私達の歡喜、光榮は申すまでもありません。

充分に清掃された一室！

私達華道部員十四名は前日二十四日十時頃より出局して光榮のお花を生ける様云ひ渡されました。私如き身分の者の生けるお花を御覽あそばすのかと思へば心から緊張して一枝一葉何事も打忘れ真心こめて生けました。

二十五日！

此の歡喜の中に 宮様をお迎へする事が出来ました。殿下には色々御熱心に御覽遊ばされた後、私共の生けたお花に對して 妃殿下より流儀につき御下問になつたとの事、後程主任さんより承りまして又も新たな喜びと感激に満ちた私です。

私達華道部員はかうした光榮に浴する事の出来た事を一生の幸福とも誇とも感ずると共に此の貯金局の一局員であつた事を非常に喜ばしく思ひました。

## 事務室御巡覽御模様を記録し奉る

振替貯金課 油谷辰次

二八

此の日師團長官殿下、妃殿下、美智子女王殿下には御休憩間もなく我等の現業執務状況を御巡覽の御順路第四貯金課計査係室より陪觀の諸員を従へさせられ支局長先驅我が振替貯金課加入係室へ入らせられたが局員の最敬禮に對し御答禮遊ばされたる後局員の執務状況を聞せられ又台覽に供する爲に事務室内に陳列した参考品に對する支局長の御説明をいとも御熱心に御聴取あらせられたるは我等振替貯金課員一同畢世の光榮として感激措くことを知らない所である。

我等局員は今日の光榮と有難き御心を深く肝に銘じ現下皇國未曾有の重大時局に際し吾等の職域に一段と奮勵を加へ寄せ來る大事業を無事成就して思召に應へ奉らんことを誓ふ次第である。

## 終生忘れられぬ感激

證券課 服部富佐子

秋空高く澄み渡る九月二十五日、賀陽師團長官殿下には、妃殿下、美智子女王殿下と御揃ひにて我が貯金支局に成らせられ局内を親しく御視察遊ばされました。

その時私は光榮ある接待係の一員としてお茶の奉仕をさせて戴きました。私は此の晴の日に接待員と

しての務を一生懸命に果さうと心に誓ひました。

「殿下御入室直ぐお茶の用意」と係長さんのお聲に私達はさつと緊張する。御菓子、御抹茶、果物とお接待申上げる毎に、貴い御方に對し若しもの事があつたらどうしよう、何卒粗相のない様にと神に念する心で一ぱいでした。

事務御視察台覽競技も無事終了してやがて刻限も迫り三殿下には御歸還遊ばされましたが、後で局長さんが私達に「皆さん御苦勞様でした。殿下にはとても御機嫌麗しく上首尾でした。本當に有難う」と感激を面に輝かせておつしやつた時には聴く私達も同じ感激に浸り接待員としての務を懸命に果した甲斐があつたと嬉しく思ひました。

此の日の感激は私の終生忘るゝ事の出來ない大きな誇です。私は此の感激をいつまでもいつまでも忘れないで誓つて銃後の乙女として職域奉公に邁進する覺悟を更に深く致しました。



昭和十八年十二月二十五日印刷  
昭和十八年十二月二十八日發行

【非賣品】

名古屋市東區橫代官町一、二番地

發行者 名古屋貯金支局

長野市縣町五二八番地

印刷人 平井佐太郎

長野市縣町五二八番地

印刷者 中長四二 長新印刷社



終

